

# 「交流」がつながる。

## 地域・世代・分野を超えて、交流がにつながる生涯学習施設の提案

高台移転をはじめとする復興が徐々にカタチとなりつつある中、町民の生涯教育と交流を通して、新しい南三陸町の地域文化を育み、発信する場を提案します。

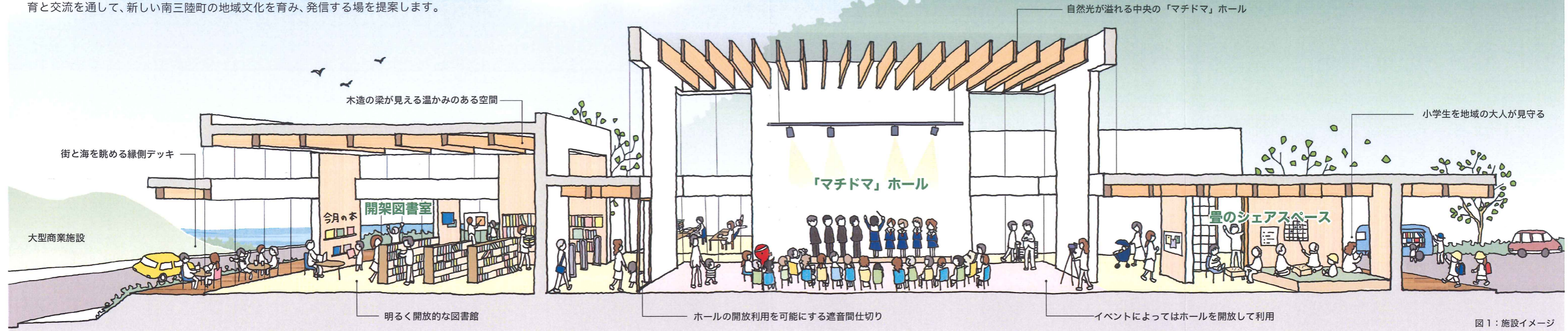


図1：施設イメージ

(1) 南三陸町の地域状況、敷地の状況を考慮した敷地利用計画案と建物計画案

## 南三陸町全域が「つながる」学習・交流空間を考える

### 1 複数の活動拠点が織りなす新しい南三陸町の地域文化

#### 南三陸町全域が「つながる」

- 歌津・入谷・戸倉の公共施設との連携利用を踏まえた最適な施設のありかたを提案します。
- イベントの同時開催、競技会等、4つの地域の活動拠点が連携、または刺激し合うことで、南三陸町全体の文化活動、相互の交流を活性化します。



図2：南三陸町内の連携イメージ

### 2 周辺施設との連携により、施設の最適化を図る

#### 中央地区の交流拠点としての提案

- 敷地周辺施設に対して開いた配置計画を行い、連携利用を促進します。
- 商業施設の賑わいや周辺施設との一体的な活用を生むことで、あたらしいまちの「中心」を形成します。
- 外構計画は交差点と国道を意識し、住民の活動が外へあふれだし、地域全体の活気につながる計画とします。

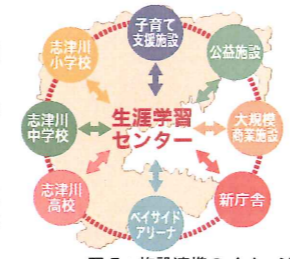


図5：施設連携のイメージ

#### 志津川地域全体が「つながる」

- 志津川エリアは高台移転事業により複数の地区に分散配置されます。本計画はエリアの中心部となる中央地区に位置しており、地区と地区の交流を促すシンボルとして位置づけます。
- 新庁舎やベイサイドアリーナ等の公共施設との連携を踏まえた、過不足のない施設を提案します。



図3：志津川エリアの地区の関係

#### 世代や分野を超えて「つながる」

- 子ども～お年寄り、個人～団体、学生～社会人まで世代を超えた交流を促し、南三陸町独自の地域文化を育み、発信できる活気にあふれた施設を提案します。
- 一つの大きな空間に、多様な「場」を設けることで、あたらしい「出会い」や「発見」、「賑わい」を生む開かれた施設を提案します。



図4：様々な利用者イメージ



図6：配置イメージ

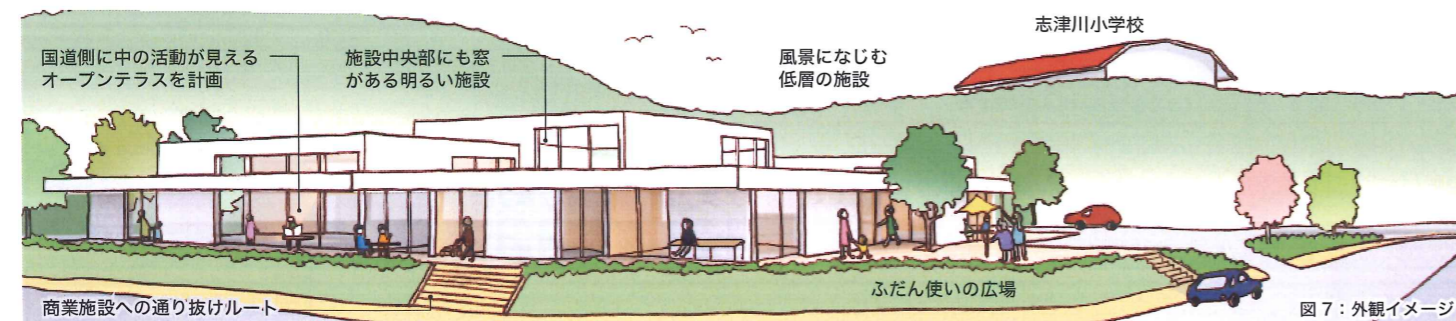


図7：外観イメージ

(2) 基本構想に定める基本方針及び導入する機能を解釈し、住民等が利用しやすい施設計画案

## 町民利用のスペースを「1階」に集約した平屋の「マチドマ」空間

町民が自由に利用できるエリアを全て1階で完結させることで、外部の「まち」の延長の「どま」のような開かれた施設をつくります。

### 1 バリアフリーの優しい施設

- 公民館と図書館のうち、一般利用は全て1階とすることで、高齢者や車いす、ベビーカーでも、階段を使わずに利用できる優しい施設となります。
- 開放的な空間構成で、どこに何があるか分かりやすい、ユニバーサルデザインを実現します。

### 2 人の気配が感じられる施設

- 1階を大きく取ることで、内部の活動が外から一目で見渡せる、圧迫感を低減した、親しみやすい施設となります。
- 全員が同じフロアにすることで、利用者同士の活動が見え、音や気配を感じる、交流のきっかけを生む施設づくりを行います。

### 3 計画・更新の自由度が高い

- 平屋となる部分は、上部に躯体がないため、構造や採光や換気などの制約がなく、計画上の自由度が格段に上がります。
- 内部の乾式間仕切りを変更することで、将来の利用の変化にも柔軟に対応できるフレキシブルな施設です。

### 4 安心・安全な施設

- 閉架書架等を別フロアとすることで、セキュリティや書籍の管理が容易になります。
- 利用者が全て1階にいるため、災害時にも、屋外へのスムーズな避難が可能です。また、建物を低くすることで、地震時の揺れが少ない施設となります。

## 「学習・創作・発表」を通じた交流を促す開かれた生涯教育の場

### 世代を超えた交流で、地域文化を育てる

- 新しく生まれ変わる南三陸町と、志津川中央地区の地域コミュニティを育む場として、子どもからお年寄りまで、多様な活動の受け皿となる施設を目指します。
- 様々な利用者が気軽に訪れることができる施設とすることで、住民の交流を促し、南三陸町のオリジナルの地域文化の育てます。



### 新しい発見がある、行ってみたくなる施設

- オープンな施設内に多様な居場所をつくることで、様々な住民活動が混在し、出会いと発見がある環境をつくります。
- 光や風が心地よいデッキテラス等の屋外空間や、明るく開放的な屋内空間に、自由に座れるイスやテーブルを設け、利用者の滞在時間を増やします。



### 住民意見を取り入れるワークショップ (WS) の開催事例

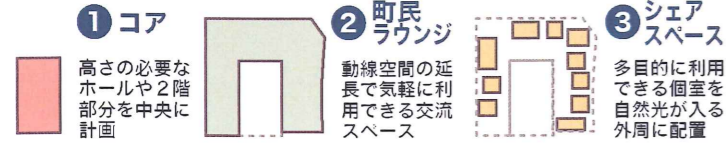


### 住民主体の空間づくり

- 近年、公民館施設の設計で住民WSを行った経験を活かし、本設計でもWSを行い、住民の意見を取り入れて、設計内容に反映します。
- 参加者が意見を出しやすい、小グループの構成や空間をイメージしやすい大きな模型、議論が散漫とならないための、討議テーマの集約など、効果的なWSを行います。

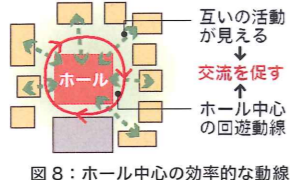
# 住民意見や将来の可変性を取り入れるための設計プラットフォームを提案

「コア」「町民ラウンジ」「シェアスペース」の3つのキーワードで施設を計画することで、WSでの住民意見の取り入れや、将来的な変化にも対応できるフレキシブルな施設づくりを行います。



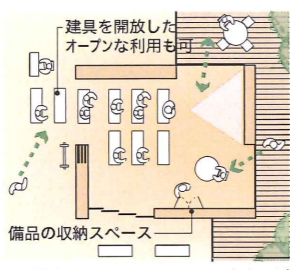
## 1 部屋の兼用や動線の短縮で、コンパクトな施設を実現

**平屋の円形配置で動線を最短化**  
 ・ホールを中心とする円形配置で、動線を短縮し、利用者同士の距離を近づけることで、住民の交流を促進させます。  
 ・町民スペースを1階に限定し、階段やEV等の縦動線を最小化します。



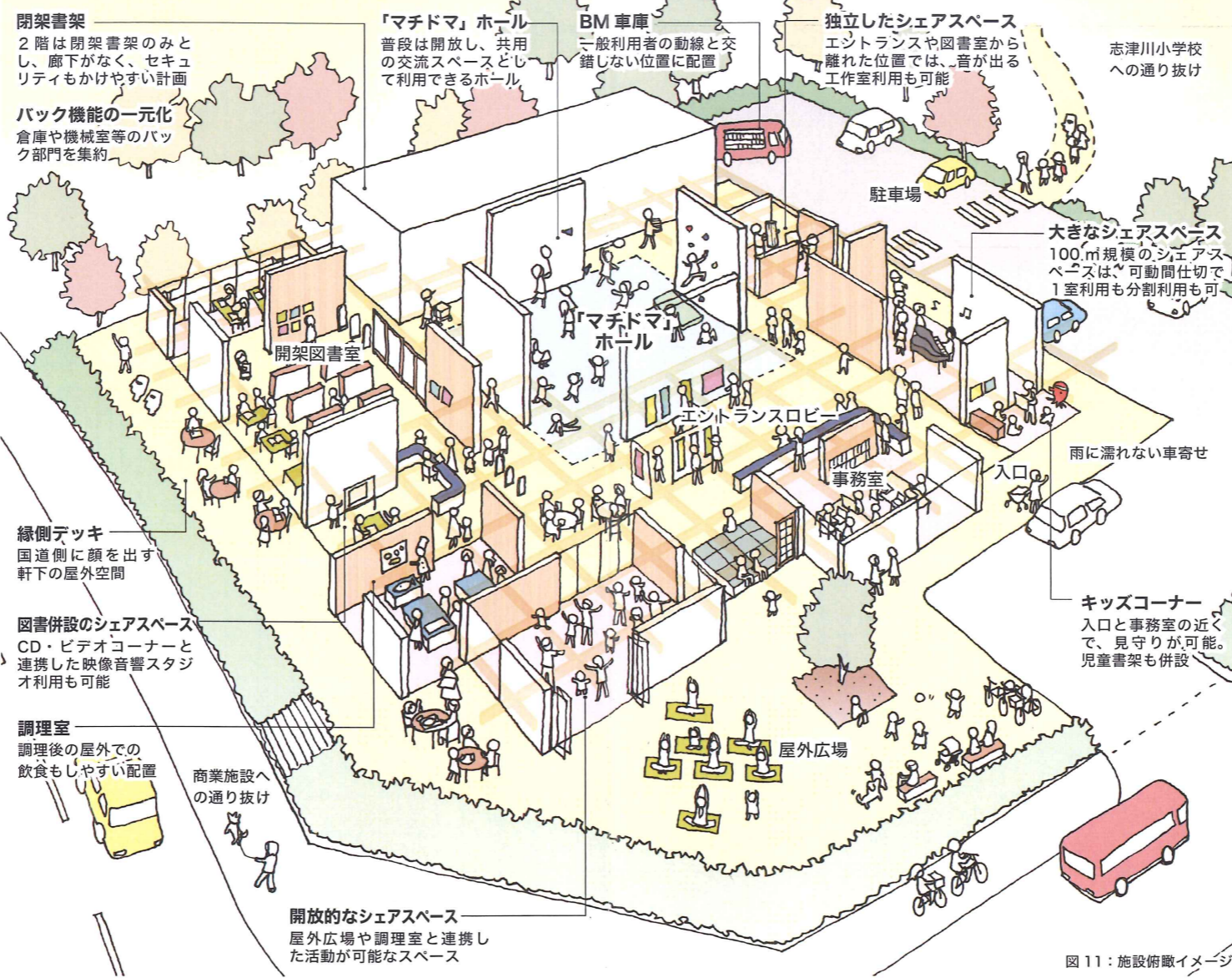
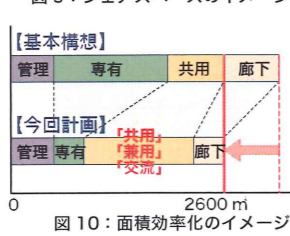
## 2 シェアスペースの兼用・転用を促進

・様々な用途に使える仕上げ・設備とし、時間ごとに研修室や各種学習教室を使い分け、運用効率を高めます。  
 ・各室の有効利用を促すため、机・イスやPC等の必要な備品の壁面収納スペースを併設します。  
 ・建具を開放し、オープンスクールのように廊下も含めた利用も可能です。



## 3 コンパクト化+交流空間の創出

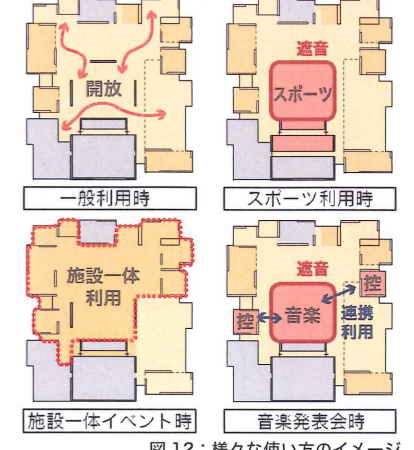
・基本構想では、専用機能から施設規模を設定していますが、動線の集約や、部屋の兼用や兼用により、施設を合理化し、交流空間を生み出します。  
 ・移動のための廊下を極力廃止し、交流空間と動線空間を兼用することで、面積効率を上げた施設づくりを行います。



## (4) 将来の利用の変化にも対応可能な施設設計案

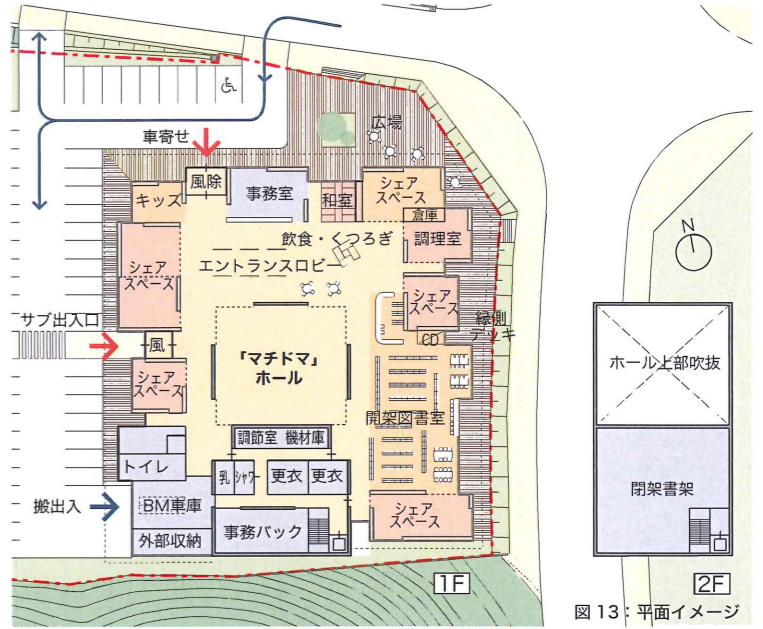
### 2 平屋を活かしたフレキシブルな計画

**様々な利用パターンが可能**  
 ・平屋の一体的な空間を適宜仕切ることによって、個別〜一体利用まで多目的な利用が可能です。



**静と動の空間を共存させる工夫**  
 ・ホールの可動間仕切り、2重構造として遮音性と耐久性を確保し、コンサートやスポーツ利用時にも図書室の静けさを確保します。  
 ・音や匂いが出る作業や調理室は、図書室から離す等、緩やかなゾーニングを行います。

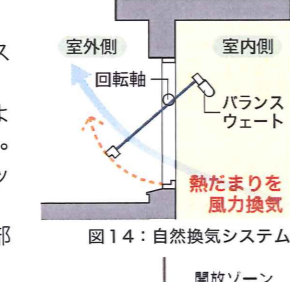
**汎用モジュールの施設構成**  
 ・900mmモジュールの構成で、改修・更新が容易な計画です。



## 3 パッシブデザインと省エネ手法の徹底

### 自然エネルギーの徹底利用

・ハイサイドライト等の自然採光をベースとした明るい施設を目指します。  
 ・風の力を利用した自然換気システムにより、中間期の心地よい環境をつくり出します。  
 ・雨水を利用した屋根散水で輻射熱をカットし、夏季も快適な環境をつくり出します。  
 ・庇の日射抑制と高断熱ガラスによる外部負荷低減で、冷暖房負荷を軽減します。



### 機能に応じた合理的な空調システム

・開放ゾーンは自然エネルギー併用による床輻射冷暖房による居住域空調とし、ランニングコストを抑制します。  
 ・空調コントロールが容易な個室部分は、イニシャルコストが安価な個別空調とし、気積に応じた空調方式とします。



## 4 災害時対応を考慮した自然エネルギー併用インフラ

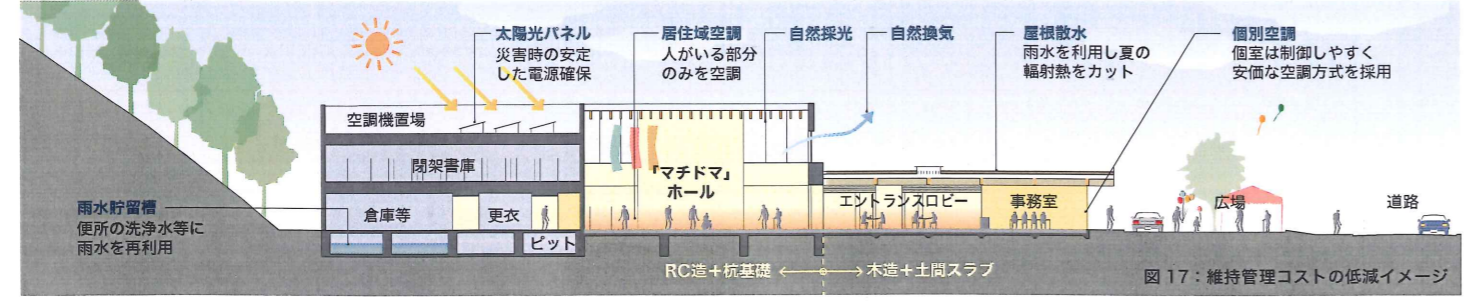
### 光熱水費低減と防災対策を両立

・空調熱源は、電気とペレット冷水水機の併用とし、コスト抑制・CO2排出抑制に努めると共に、災害時の機能維持につなげます。  
 ・太陽光パネルを設置し、蓄電池も併設することで、停電時の携帯電話の充電対応ができる計画とします。  
 ・雨水貯留槽を設け、トイレ洗浄水等に利用し、水道代を節減します。

電気	太陽光発電パネル 自然光ベースの明るい室内
下水	雨水利用 (便所洗浄水) 浄化槽の非常用電源対応 仮設トイレ対応マンホール
空調	木質ペレット冷水水機のバイオマス利用

## 5 管理がしやすく、長持ちな施設

・平屋のオープンな施設構成により、職員による管理を同一階で完結することができ、人件費の抑制が可能です。  
 ・耐久性や清掃性を考慮した材料選定と、将来の変化に対応可能な空間構成により、LCCを抑えた長寿命建築を実現します。  
 ・耐久性を考慮し、屋外の木材利用は、雨掛りの無い軒裏に限定します。



## 6 FSC プロジェクト認証を見据えた無理のない木造建築

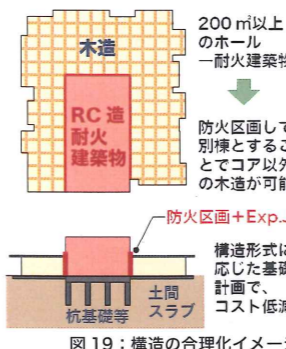
### 南三陸町の林業振興を推進

・南三陸町では、昨年 FSC 認証 (森林: FM 認証+加工: COC 認証) を取得し、林業の振興に取り組んでいます。  
 ・庁舎等で進めている「FSC プロジェクト認証」を本施設でも取得できるよう、工場を制限しない汎用材料・工法を選定することで、一歩先の木材活用を行います。



### RC と木の併用による構造の合理化

・ホールと閉架書架となる「コア」部分は、耐火性能や遮音性能、重荷重対応を考慮し、RC 造で計画します。  
 ・性能上の負担の大きい部分を RC 造とすることで、「町民ラウンジ」を木造で計画することができます。  
 ・地盤調査結果にもよりますが、RC 造となる「コア」は杭基礎等の強固な基礎とし、軽量の構造となる「町民ラウンジ」は、地盤改良と土間スラブ等とすることで、掘削量と基礎躯体量を低減します。



### 温もりを感じる木あらしの意匠

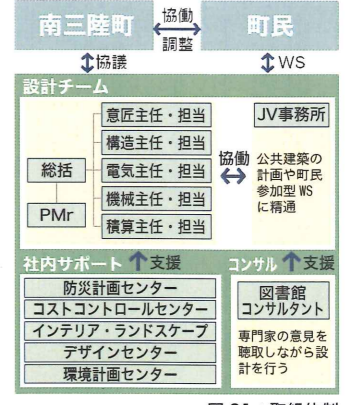
・「町民ラウンジ」は、天井を張らず木構造を見せ、温かみがあり、天井落下リスクが無い安全な計画とします。  
 ・カウンターや什器等の手の触れる部分には、耐久性を高めた、圧縮加工を施した南三陸スギを使用します。



## 7 ノウハウをフル活用できる万全のチーム体制

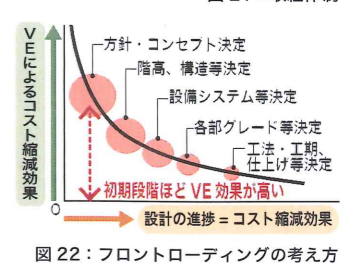
### 気候風土や建設市況を熟知したチーム

・宮城県内で複数の被災地復興案件を経験し、気候風土や建設市況、災害復旧の手続きを熟知した設計スタッフが、業務を推進します。  
 ・PM やコストコントロールセンター、インテリア等の社内サポートチームや、図書館コンサルタント等との連携体制を構築し、総合組織設計事務所としての総合力・技術力を十分に発揮し、事業を推進します。  
 ・町民ワークショップ (WS) についても、経験を持つアトリエ事務所が、企画運営し、効果的な WS を行います。



### フロントローディングによるコスト管理

・規模や条件が固まった時点で大ま概算を行い、ターゲットを把握した上で、適正なコストプランを行い、手戻りの少ない計画とします。  
 ・近年の落札状況をまとめた弊社の豊富なコスト情報を活用し、適時のコストレビューを行い、実勢価格を反映した実現性の高い設計を行います。



## FM (ファシリティマネジメント) の考え方を導入

・南三陸町の将来の公共施設運営の視点から、既存施設の調査、施設連携の企画提案や、本施設における FM 戦略の策定を行い、施設管理者と利用者の両方にとって快適・魅力的な施設を実現します。